

## 第29回 かたの環境を考える委員会

### ■概要

- ・日時：2011年12月6日（火）18:30～21:30
- ・場所：交野市役所 別館3階中会議室
- ・テーマ：計画の目標設定、計画案の修正

### ■進行・内容

- ★18:30 交野市環境保全課長より開会の挨拶。
- ★18:32 本日の予定の確認、全体ガイダンスをおこなった。
- ★18:40 今後の委員会の予定について以下を確認した。

〈ロードマップの確認〉

- ・環境基本計画書は仕上げの段階にきている。1月にパブリックコメントにかけるため、12月中にプロジェクトシートを完成させる。

〈環境基本計画書について〉

- ・他市が作成した環境基本計画書を閲覧し、プロジェクトを魅力的に見せるための工夫などを参考にし、交野の計画書をどのように仕上げるかイメージを持った。

〈出された意見は以下のとおり〉

- ・他市の計画書では写真がたくさん掲載されているので、いま都市計画課で展示している写真で使用可能なものを挿絵として入れてみてはどうか。自然環境保全グループが中間発表会で使用した写真もぜひ計画書に掲載してほしい。

〈推進体制の考え方〉

環境基本計画の動きについて、環境保全課長より説明があった。

- ・12月19日の委員会でパブリックコメントを行うための計画書のたたき台を完成させる。1月中旬から2月にかけてパブリックコメントを受け、2月末に市長に提案を提出し、3月に市の施策にする。
- ・1月中に、次年度の推進体制について考えていく。かたの環境を考える委員会は3月で解散するが、みなさんには推進組織の立ち上げから核になっていただきたい。他の市民、団体、事業者、市の関係部局など多くの仲間を巻き込んで実行に移していく。

〈出された意見は以下のとおり〉

- ・計画書に記載するプロジェクト以外のところはどのようにまとめていくのか？  
→計画書のすべてのページをパブリックコメントにかける必要はないので、計画の核となるものだけを今回と次回で準備していく。

〈新しい仲間の見学会〉

- ・来年1月10日の委員会前に新しい仲間を迎えるためのオリエンテーションを行う。全体的な委員会の説明と、グループのみなさんからグループ紹介ができればよい。

〈事例視察〉

- ・ 1 月中に、環境基本計画を市民参加で策定した他市の先行事例を視察する。2 年前に環境基本計画を策定した生駒市を訪問する予定。プロジェクトの動き方や推進組織の立ち上げ方、事務局の運営の仕方などの話を伺う。そのため、1 月 23 日夜の委員会は日時が変わる予定。視察日については日程調整を行う。

★18：55 環境基本計画の成果をはかる指標・目標設定について、保全課から提案が出された。

- ・ 指標と目標設定は、計画全体の進歩・達成状況を計るものとして考える。期間は平成 24 年から平成 33 年までの 10 年間。
- ・ 以下の指標、目標（案）を提示した。

	指標	目標	備考
1	緑地面積	市域面積に対する割合を、平成 32 年（2020 年）に 59%以上	緑の基本計画
2	観光客数		大阪府観光統計調査
3	交通機関利用者数		電車・自動車保有台数
4	二酸化炭素排出量	基準年（1990 年）に対し、地域での排出量を 2020 年に 25%削減 ※人口増により、一人あたりの排出量を出すか検討	国・府と連動
5	ごみ処理量	18 年度を基準に平成 29 年（2017 年）に家庭系 15%、事業系 22%を削減、再生利用率を 25%高める	平成 23 年度交野市一般廃棄物処理計画
6	河川水質（BOD）	全ての川で環境基準値（3mg/l）相当にする	天の川における環境基準値

（出された意見は以下のとおり）

- ・ それぞれの指標の現在の状況を提示しないと比較しにくいのではないかな。
- ・ 指標、目標はこれらに絞ってスタートさせ、具体的にプロジェクトが動き出していけば他の課にも協力してもらいプロジェクトを進めていければいいと思う。

Q1：各グループのプロジェクト評価基準と関連させる必要はないのか？

A1：各プロジェクトの評価の基準に加えて、交野市全体として必要な数値を出す必要がある。ごみや二酸化炭素についてはいろんなプロジェクトが関連するため、計画全体としては 1 つの目標をめざし、プロジェクト評価とも整合性をとっていく。

Q2：自然環境保全グループで里山保全のプロジェクトが出ているが、里山保全に直結する指標はないのか？ 緑の基本計画に出ていないのか？

A2：森林整備面積が数値化できるか、農とみどり課と調整をしている。森林整備面積が 10 年後には倍増するなどを指標として検討することもできるだろう。

Q3：生物指標はないのか？

A3：他市では鮎の遡上や、コウノトリが町中で見られるといった指標が議論されていた。交野の川でも何年か同じ場所で生息している生き物があればいいが変遷がわからない状況だ。

Q4：BODなどの言葉は補足が必要ではないか？

A4：資料集をつけて、用語集と交野の環境に関するデータを掲載する予定だ。

⇒指標と目標は12月19日までに考えて検討する。意見があれば保全課まで出してほしい。

★19：15 中間発表会でいただいたアンケート結果の報告を保全課からおこなった。参加された意見、興味をもたれた理由・意見を紹介した。

★19：25 他のグループのプロジェクトに対する提案を各自が記入し、各グループへ渡した。

★19：35 休憩

★19：40 グループワーク：中間発表会を受けてプロジェクトの修正をおこなった。

★21：20 全体共有、事務連絡を行った。

・プロジェクトシートは、本日の議論の内容を受けてコーディネータがまとめ上げ、次回の会議で提示、最終の修正をかける。内容の変わらない範囲で表現等を整えていくのでご了承願いたい。

・次回19日の全体会では推進組織の検討をする。

・総合ビジョンについて、さらに盛り込めるアイデアがあれば、次回の委員会までに保全課まで提出してほしい。

(出された意見は以下のとおり)

Q1：他市の環境基本計画書では、プロジェクト評価の指標を提示しているところはない。数値目標が出せないプロジェクトもあるがどうするのか？

A1：数値を設定できないプロジェクトは状況の表現でよいと思う。

Q2：推進組織ができて、プロジェクトを動かそうとする人が1人しかいない場合、そのプロジェクトはなくなるのか？

A2：10年間のスパンで考えていただきたい。交野市として必要なプロジェクトだと考えて現在議論をしている。計画書に掲載するプロジェクトを一斉に動かすわけではなく、スタートできるプロジェクトから始めて、仲間を増やしながら次のプロジェクトを動かしていく。

★21：30 終了

## ■グループ議論の詳細

### 【エネルギーグループ】

#### 1. 中間発表会で出た意見の共有と確認

2回の発表会をうけて得られた意見等から、プロジェクトの改訂・精査について議論した。

(議論の内容)

・涼み処は、1人で行くだろうか。ベンチを置くだけで来てもらえるだろうか。他のプロジェク

ト、例えば自転車やエコカフェなどとの連携・連動も必要ではないか。涼み処のベンチは、再生材でも良いのではないか。

- ・ソーラー発電は押し売りや施工が不慣れな業者もあるようで、多くの市民が実績のある優良事業者の情報を求めている。→交野市の事業者を紹介する活動なども盛り込んでどうか。
- ・「バイオマス利用は検討しないのか」といった意見が出ていた。→交野の山は急峻。そのうえ、煙が出るとまわりから苦情がでることもある。
- ・公共交通より個人の自動車の方が経済的（運賃とガソリン代の比較）な場合もあるが、エコドライブで確実に10%程度燃費を向上させることができる。
- ・エコドライブの評価が「ステッカーの発行数」で良いのかという意見があった。→簡単に交付するのでなく、一定の要件を満たさないと渡さないなど条件を設けたらよいのではないか。
- ・ソーラー発電は、寄付かファンドかどちらで推進するのがよいか。→個人の意思で寄付方式でも良いのではないか。→共同発電を広めるにも公共施設の老朽化もある。

## 2. 中間発表会をうけてプロジェクトの精査

### (1) そらいけソーラーパネルプロジェクトの改訂箇所

内容：

- ・他のプロジェクトとあわせて「第1段階」「第2段階」などを盛り込み推進手順を明確にする。
- ・「先行事例研究」のなかの「各メーカー性能情報」と「収集」の間に、「地域の優良事業者の実績等の情報」を入れる。
- ・「エネルギーグループの役割、機能の研究」は削除
- ・「実践普及活動」の「太陽光発電導入手引書」の後に、「(収支等のモデルプランなど)」を入れる。
- ・「先行団体。個人の活動紹介」は、「先行団体の活動、個人の事例紹介」に改訂。
- ・「太陽光発電導入方式の検討」の段。「市民ファンドの利用」に続けて、「共同購入」を入れる。
- ・「内容」の最も下。見出しを「他の自然エネルギー利用の調査・研究」とし、「風力、水力、地熱、バイオマスの利用について調査・研究し、交野に適したものから普及をはかる。」に改訂。

評価の基準：

相談件数・問い合わせが年々増えている。

市内の多くの住宅でソーラーパネルが設置されるようになる（全戸数の1割程度の約3,000軒が設置している）。

### (2) 星のまち☆エコドライブ

内容：

- ・第1段階の「☆星のまちエコドライブパンフレットを作成し、活用する。」を、「☆コスト削減効果や、家計支出効果を、事例をもとに具体的に示した、星のまちエコドライブパンフレットを、企業向け、家庭向けそれぞれ作成し、普及活動に活用する。」に改訂する。
- ・第2団体の「ステッカーがステータスとなるようPR」は削除。

評価の基準：

エコドライブ実践者が非実践者より多くなる。

エコドライブステッカーを貼った自動車を当たり前に見ることができる。に改訂。

### (3) 風を活かしたまちづくり

目的：

- ・冷暖房に頼りがちな現代人に…」を。「なるべく冷暖房を使わない工夫をひろめ、省エネルギーを推進する。」に改訂。

内容：

- ・第1段階「天然の涼み処（陽だまり処）」探し」の2行目。「風の通り道を探し、」を、「風の通り道を探すワークショップや涼み処の募集を実施し、」に改訂。
- ・第1段階「天然の涼み処（陽だまり処）」作り。「ミストなどを積極的に行う。」の後に、「木を植えるなどで、木陰づくりを行う。」を入れる。
- ・第1段階「天然の涼み処（陽だまり処）」のマップ化。「市民に周知し、」を「市民や観光客に周知し、」に改訂。
- ・「井戸端会議に活用」を「井戸端会議等に活用」に改訂。
- ・第2段階「天然の涼み処（陽だまり処）」をもっと快適に。「使用されなくなったイスなど」を「使用されなくなったイスや廃材や再生材を使ったイスなど」に改訂。
- ・第2段階に、もうひとつ「☆涼み処を活用したイベントの実施」を追加。その下行に「他のイベント等と連携して、涼み処（陽だまり処）が活用されるように働きかける。」を入れる。

評価の基準：

- ・「夏の観光客数」を削除し、「利用者数（市民と観光客）」に改訂。
- ・「ワークショップ参加者数」「天然の涼み処（陽だまり処）の応募数」を追加。

☆次回の予定：プロジェクトを煮詰めていく。

## 【エコ生活グループ】

### 1. プロジェクトの修正

#### (1) 売ってエコ 買ってエコ

①目的と効果の整理を行い、効果について検討し以下に改訂した。

買い方売り方だけでなく、エコスタイル全般に関心を持ち、一人一人の生活全体がエコライフ化する。

②評価の基準を考え以下に改訂した。

- ・バラ売り量り売りをしている店が市内に半分以上ある。
- ・平成18年度を基準に平成29年に家庭系ごみを5%削減する  
(☆上記は、全体の指標に合わせて、このプロジェクトで達成したい目標を考えた)

### ③誤字脱字の修正

#### (2) かたのエコ研修センターをつくろう！

##### ①目的を検討し、以下に改訂した。

“かたのエコ達人”認定者の活動の場づくりと、市民が気軽に環境に触れられる場づくり

##### ②評価の基準を以下に改訂した。

- ・かたのエコ達人の活動の拠点ができている。
- ・誰もがいつでも環境について学べる場ができている。

#### (3) 「エコライフ達人への道」攻略マニュアル

##### ①タイトルの変更

「めざせ！かたのエコ達人」のプロジェクトと関連しているプロジェクトであり、めざせ！かたのエコ達人プロジェクトの第3段階で攻略マニュアルを作成することになっている。

エコ達人のプロジェクトが講座編とすれば、この攻略マニュアルプロジェクトは資料をつくる資料編。

よって、かたのエコ達人プロジェクトにタイトルを合わせて、関連していることを明確にすることになった。

「エコライフ達人への道」攻略マニュアル⇒「かたのエコ達人への道」攻略マニュアル

##### ②目的を以下に修正した。

エコライフに繋がる具体例を知る・知らせる資料を作成する。

#### (4) めざせ！かたのエコ達人

これまでは、「エコ良人（ろじん）」というタイトルできていたが、全体会での合意なく、「エコ達人」に変更している。そこで、エコ達人に変更した経緯の確認と、エコ良人に戻る可能性について議論した。

エコ生活グループとしての認識は、

・エコ良人⇒環境のことを何かしようと思った人、エコライフを実践している人、まだまだ見習い、生徒、学んでいる途中の人。

・エコ達人⇒エコ良人をさらに極めた人のこと。先生、教えられる人。

めざせ！かたのエコ達人のプロジェクトでは、第2段階で「エコ達人」を認定するという内容がある。よって、良人ではなく達人をつくるという趣旨。

結論：エコ良人への変更は不可。タイトルはエコ達人でいく。

#### (5) やる気がでるエネルギーダイエット

##### ①効果と目的の整理をし、目的を以下に修正した。

- ・みんなが楽しんで省エネに取り組む。
- ・地球温暖化防止に貢献する。

##### ②「自然の恵みを感じられる暮らし」という効果を内容で説明を加えた。

第2段階：なぜ省エネが必要か、具体的に何をすればいいのかを学ぶセミナーを実施し、自然と共に生きる楽しさを知るきっかけをつくる。

③評価の基準を以下に改訂した。

1人あたりのCO2削減率 90年度比 10%削減

(上記の基準の検討経緯)

交野市全体の指標の二酸化炭素排出量の目標とあわせているが、交野市では、90年より人口が13,000人増加している現状から、市としては人口に関係なく、削減しないといけませんが、このプロジェクトは家庭(個人)に対するプロジェクトなので、人口に左右されない一人当たりという基準にした。

このプロジェクト自体は3年くらいの実施を考えている。

流れができて人手がいなくなる、または育ってきたら、「めざせ!かたのエコ達人」と統合することを考えている。プロジェクト推進チームは一度解散しても、省エネキャンペーンは継続させていく。

(6) 「生ゴミ堆肥をもとに農産物販売アップ」

内容について確認をおこなった。目的は生ゴミを堆肥化して、再資源化すること。よって、市民がうまくできる方法を考えたい。モデル地区の設定はいらないのでは?という議論になった。企画主担当の委員に再度確認中。

☆次回の予定:今回は議論ができなかった「とかいなかライフプラザ」について考える。また、内容と評価の基準を再度議論する。

## 【まちづくりグループ】

### 1.意見交換会および他グループからいただいた意見の確認

意見交換会で出た意見と、他のグループの委員・コーディネータからの意見を確認し、プロジェクトシートに盛り込むべきことについて議論した。

〈出た意見〉

#### (1) 農業活性プロジェクト

- ・ 観光農業のイメージをもっとわかりやすく。
- ・ 本当に農業をやりたい人の受け皿は?
- ・ 休耕田を半分にするために、どんな方法で達成するのか。
- ・ 休耕田を利用する人にメリットが返ってくる仕組みがあるのではないか。→作った農産物を自ら売って利益を得られるようにしてはどうか。
- ・ エコ生活の「とかいなかライフプラザ」プロジェクトと一緒にやりませんか。

#### (2) 自然満喫エコツアー

- ・ エネルギーグループのプロジェクト「風を活かしたまちづくり」で設けた天然の涼み処を周知し活用するために、エコツアーの中の休憩場所として、ツアーコースに入れるなどコラボできたら。

- ・ 内容の①～④が意味不明。
  - ・ ツアー実施についての記述が見当たらないがどうなっているのか？
- (3) 自転車の事故ゼロとマナー向上を目指そう大作戦
- ・ ハザードマップ作成後、中学校区学校協議会や自治会にフィードバックして知らせてもらい、地域での共有化をはかるのも大切ではないでしょうか。
  - ・ 評価の基準の「自転車のマナーが良く」では基準にならないのでは。また、「自転車で走りやすい道が増えている」は次のプロジェクトのことでは？
- (4) 交野のまちを自転車が利用しやすい環境に！
- ・ 簡易「自転車屋」について、既存の自転車店の仕事を取ると良くないので、「出張に来てもらう」などが良いのでは。
  - ・ 駐輪場について、等間隔の意味がわかりにくいのでは。
  - ・ 自転車道完備して！！
  - ・ 評価の基準の「第1の移動手段が自転車に」→公共交通との兼ね合いは？
- (5) 住民が利用しやすいバス
- ・ エコセンターにゆうゆうバス来てほしい。
- (6) 自然、農業、歴史に触れて、子どもの育てやすい環境を
- ・ 「歴史」についての内容が見当たらないが。
  - ・ 評価の基準の「1つでも多く」では基準にならないのでは。
- (7) 委員会・プロジェクト全体について
- ・ 少子高齢化社会に入っており、協働のための「人づくり」を加える。
  - ・ 過去の水害、地震など知る学習会など必要。

## 2. プロジェクトシートの修正

- (1) 全体の表記修正について
- ・ 中間発表会資料の「対象」項目には、ひとまず全プロジェクトに「市民」を入れる。
  - ・ 「効果」は「波及効果」と書き換える。
  - ・ 「内容」については、全プロジェクトの第1段階の最初に「プロジェクトチームを立ち上げる」と表記する。
  - ・ 他プロジェクトと関わりのあるプロジェクトについては、「他プロジェクトと連携して…」と表記する。
- (2) 農業活性プロジェクト
- ・ 「評価の基準」に、観光農業参加者の平成23年度実績を追加する。
- (3) 自然満喫エコツアー
- ・ 第1段階の④にツアーの実施についての項目を追加する。
- (4) 自転車の事故ゼロとマナー向上を目指そう大作戦について
- ・ 「目的」項目の「自動車によるCO2の排出量削減」を「自家用車によるCO2の排出量削減」



と改める。

- ・ 第3段階として、報告会の実施を追加する。
- ・ 「評価の基準」の「自転車のマナーが良く」を「講習会の参加者数が1万人になり」と改め、平成23年度の自転車事故件数を追加する。

(5) 交野のまちを自転車が利用しやすい環境に！

- ・ 「目的」項目の「自動車によるCO2の排出量削減」を「自家用車によるCO2の排出量削減」と改める。
- ・ 地域の自転車販売店との協働を内容に盛り込む。
- ・ 「評価の基準」の「多くの人の第1の移動手段が自転車になっている。」を「自家用車の保有台数が10%減少している。」と改め、平成21年度の自動車保有台数を追加する。

(6) 自然、農業、歴史に触れて、子どもの育てやすい環境を

- ・ 第3段階に「歴史や文化を生かしたまちづくり」を追加する。
- ・ 「評価の基準」の「交野の農地で作った農産物が1つでも多く食卓に並び」を「本プロジェクトが全小学校区で展開し」と改める。

#### ☆宿題

- ・ 全プロジェクトの最終修正はコーディネーターが行う。「自然満喫エコツアー」に関しては修正案をコーディネーターまで送付する。
- ・ タイトルについては、次回委員会までに全員がアイデアを練ってくる。

☆次回の予定：全体の細部を確認し、プロジェクトシートを確定させる

### 【自然環境保全グループ】

#### 1.意見交換会および他グループからいただいた意見の確認

意見交換会で出た意見と、他のグループの委員からの意見を確認し、プロジェクトシートに盛り込むべきことについて議論した。

〈議論の内容〉

- ・ 80代ぐらいの人から昔の交野の自然の話聞くのは意味がある。
- ・ 既存の団体を立てて活動しないと反発を招く。市の環境基本計画に基づく市の事業であることを前面に打ち出して活動すべき。
- ・ すでに話をしているので、ゆうゆう会とは連携がしやすいと思う。
- ・ 影響力のある区長や若手の地主をまず活動メンバーに引き入れないと成功しないだろう。
- ・ 山地対策協議会では、議員や区長、野鳥の会などが連携しているのではないか。
- ・ 意見交換会の参加者にも団体で活動している人がいた。いろいろなところと協力を。
- ・ まずは突破口を開くため、実践の場を持ちたい。整備されてきれいになった山の見学会などもやってみてはどうか。

- ・保全のシンボルがあるとたしかにわかりやすい。
- ・目的意識が継続するように、楽しい活動にしなければならない。

〈結論〉

いただいた意見はいずれもすでにグループで話し合ってきた内容と重なっており、特段にシートに加えるべき事項はない。活動を進めるにあたっては考慮していく。

## 2. プロジェクトシートの修正

(1) シートの表記の修正と追加について

- ・他グループとのバランスを考慮して、「1. 2. ……」の表記を「第1段階、第2段階……」と変更。
- ・プロジェクトその1の目的欄に「交野の里山のファンを増やすとともに」を追加。
- ・プロジェクトその1からその3の波及的効果の欄に「自然災害に強い地域になる」を追加。
- ・プロジェクトその3の活動内容の欄に第4段階を追加。

(2) プロジェクトの名称について

プロジェクトその1からその3のサブタイトルは省き、下記の名称とする。

- ・プロジェクトその1「里山を知ろう・里山大好きプロジェクト」→このまま確定
- ・プロジェクトその2「里山保全活動を実践するプロジェクト」→「実践！里山保全活動」
- ・プロジェクトその3「里山の持ち主と活動団体を結ぶプロジェクト」  
→「山の持ち主と活動団体の縁結びプロジェクト」
- ・プロジェクトその4「豊かな川づくりプロジェクト」→「生きものいっぱい！豊かな川づくり」

(3) 評価の基準について

- ・プロジェクトその1：イベント・学習会・調査などへの参加者数が10年後に累計1万人以上になる。
- ・プロジェクトその2：里山保全活動への参加者数が10年後に累計7000人以上になる。
- ・プロジェクトその3：(協定件数を指標にするか？ 次回に継続審議)
- ・プロジェクトその4：(今回は議論できず)

☆次回の予定：その3とその4の「評価の基準」を決めて、全体の細部を確認し、プロジェクトシートを確定させる

以 上